

死海でビールを味わう⑩

近藤 節夫 (エッセイスト)

死海で泳いだ日の夕刻、ヨルダン川沿岸のホテル内のレストランへ行った時のことだった。イスラム教国では一般的にアルコールはご法度であるが、ヨルダンはイスラム教国でありながら、キリスト教徒も10%ほどいるため、多少他のイスラム教国に比較して飲酒に寛容なところがある。食卓に着くや、最初にボーイから尋ねられた言葉が意外にも「ビール

を飲むか？」だった。ホテルでも酒類はごく限られていたが、ビールは提供していたのだ。死海に入る前にアルコールは極力差し控えた方が良いとアドバイスされたにも拘わらず、口内に塩分が残ったままアルコールを飲んだら、どんな感触がするだろうかと自虐的

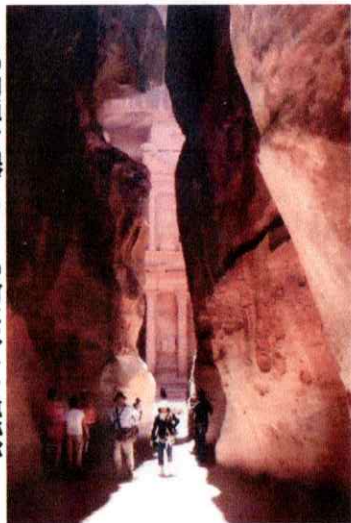


嘆きの壁（ユダヤ教の戒律により、女性は塀で男と分けられ、手前の女性たちが男を覗いている）

な興味もあって、缶ビールをひとつ注文してみた。

ヨルダンで人気のビールには、「AMSTEL BEER」と「PETRA」の2種がある。前者はその名の通り、オランダメーカーの製品をヨルダンのメーカーがライセンス契約により製造しているものだ。だが、この日死海の南の世界文化遺産「ペトラ遺跡」を訪れたところだったので、「PETRA」ビールを味わってみた。

期待と不安の混ざりあった気持ちで、ビールを口の中へ運んだ瞬間何とも言えない異質な飲み物の感じがした。ビールは最初の一口が何とも言えず、心地好い気分になるものだが、この時ばかりは甘酸っぱいような、ズバリ！ ひでえビールだった。



この切通を過ぎると目の前にペトラ遺跡が……